

☘ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ☘
～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

中学校図書館教育研究会総会

福岡市中学校図書館教育研究会総会が、4月23日（月）福岡市教育センターで行われました。

総会は、始めに、学校指導課の瀬村主任指導主事から学校司書配置の目的などの話がありました。続いて、研究会長の高木徹校長先生から新学習指導要領が主体的・対話的で深い学びを打ち出しており、これはこれからの図書館教育の役割でもあるということや司書教諭から図書館の活用を働きかけてほしいなどの話がありました。

次に、昨年度に引き続き「自ら学ぶ力を育て、豊かな心を培う学校図書館」という研究テーマのもと、研究会主催による年2回の自主研修会、59回目を迎える中学生図書委員交流会の実施、さらに、福岡市子ども読書フォーラムへの参加などが今年度の活動として承認されました。

その後の研修会では、下山門中学校の井田和志副会長が講師となり、「学校図書館活用法」という内容で研修をしました。井田副会長からは、学校図書館を活用するために必要なことや自校で図書館を活用した授業の様子や先生方の校内研修会について話がありました。



(学校指導課の話)



(会長の話)



(副会長の研修会の話)



(グループに分かれて意見交換)

最後に、グループに分かれて、図書館の環境整備や授業への活用などについて意見交換をしました。

中学校の図書館教育研究会の役員や図書館担当者の熱心さを感じる研究会総会でした。

※中学校図書館教育研究会は、福岡市立中学校の図書館の運営・図書館教育について研究し、その向上・発展を図る会です。主な事業として、学校図書館の管理・運営に関する研修や図書館教育・読書教育に関する研修会、生徒図書委員交流会などを行っています。

Hello! 学校図書館

《西陵小学校》



今年度も、福岡市内の小中学校、特別支援学校を訪問し、図書館の様子などを紹介していきます。学校の図書館の運営や環境づくりなどの参考になればと思います。

西陵小学校は、10級215名の学校です。図書館とは別に、学習センターにも本が置いてあり、比較的書架に余裕があります。図書館に、ソファを置いたり、机に布をかけたりして、とても落ち着ける雰囲気をつくっています。また、子どもたちが、本を選びやすいように、おすすめの本を学年ごとに配架するなど、いろいろ工夫をしているすばらしい図書館です。

○ 図書館に子どもたちが行ってみたいくなるような工夫



(図書館の前に配架された本)

図書館前の廊下に布をかけた机を置いて、その上に本の表紙が見えるような配架をしています。そのために、配架された本がとても目立ち、図書館に行ってみようという気持ちが生まれてきます。

○ 配置の工夫



(図書館中央付近から出入口方向の写真)

図書館の出入口付近は机を置かず、畳やソファを置きゆったりした空間をつくっています。



(表紙を見せた本が、子どもたちを迎えてくれます。)

図書館に入ると、白とピンクの柄の布の上に配架された本が、目に飛び込んできます。



(ソファと絵本)

ソファの横には絵本がすぐ手にとれるように配置をしています。



(布の上に表紙が見えるように配架された本)



○ 落ち着いた雰囲気を出す工夫



(図書館のカウンター)



(布がかけられたカウンターの後ろの棚)



(布をかけられた机)

机に布がかけられているだけでなく、カウンターの中の棚にも布をかけているため、落ち着いた雰囲気が感じられます。

○ 親しみやすい図書館にする工夫



(本棚の空いたスペースに飾られたぬいぐるみ)



(「フレリック」の絵本とぬいぐるみ)

親しみやすい図書館にするために、空いた棚のスペースにぬいぐるみを置いたり、紙で昆虫を作って掲示板に貼ったりしています。絵本と一緒に、絵本の表紙と同じようなぬいぐるみを置いています。



(紙で作られたトンボ)

○ 本を選びやすくする工夫



(上の段だけでなく、下の段にも表紙が見えるよう配架)



(1年生のおすすめの本)

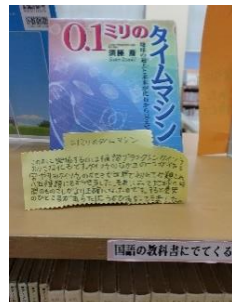


(6年生のおすすめの本)

学年ごとにおすすめの本を選んでいます。また、表紙が見えるように配架しています。



(子どもの書いた紹介文と一緒に本を配架)



(国語の教科書にでてる本)



(子どもが書いた本の紹介文を掲載した図書館だより)

子どもの書いた本の紹介文を本と一緒に掲示したり、図書館だよりに掲載したりしています。

教科書に出てくる本だけでなく、作者や分野などに分けた配架をして、本を選びやすいようにしています。



(国語の教科書に出てくる本)



(ユーモア、おぼけ・ようかい、きょうりゅう、ことば・かずなどいろいろ分類された絵本)



(ファーズルの紹介とファーズル昆虫記の本と一緒に配架)



(紹介された記事)

新聞や雑誌などで紹介された作者とその本と一緒に配架をしています。

6月生まれの文学者



齋藤 惇夫（さいとう あつお）と「グリックの冒険」

1940年6月20日 新潟県新潟市生まれ

齋藤氏は、小学校から高校卒業までを長岡市で過ごし、立教大学法学部を卒業しました。そして、大手電機メーカーに勤務した後、福音館書店編集部で児童書籍の編集に携わりました。

齋藤氏は、1970年、27歳の時に、2か月ほどで「グリックの冒険」（日本児童文学者協会新人賞を受賞）を書き上げ、作家デビューをしました。この話を書こうと思ったのは、家で育てていたシマリスが逃げ出したこと、そして、自分をはぐくみ育ててくれた北国の自然や体験を通して知りえた人生の起伏、出会うことができた大切な人や物の中を作品に登場するシマリスのグリックと一緒に、もう一度歩いてみようと思ったことなどからでした。

齋藤氏は、編集の仕事も続けていたので、翌日の仕事に差し支えないようにするために、「ガンバ」シリーズの執筆は、毎日夜の23時から1時までの2時間、書く枚数を6枚と決めて書いていました。作品の数はあまり多くなく、1972年「冒険者たち ガンバと15ひきの仲間」、1983年「ガンバとカワウソの冒険」などあります。「冒険者たち」はロングセラーとなり、「ガンバの冒険」の名前でアニメ化されたり、劇団により繰り返し上演されたりしました。齋藤氏は、平成17年本市の子ども読書フォーラムで講演しました。また、教育委員会のホームページ「おすすめの絵本・本を紹介します」の「専門家が選んだおすすめの本・絵本」に「齋藤惇夫先生おすすめのリスト」として、本の紹介をしています。



有川 浩（ありかわ ひろ）と「図書館戦争」

1972年6月9日 高知県高知市生まれ

有川氏は、園田学園女子大学を卒業しました。小さいころから家には、いろいろな種類の本が置いてあり、自由にそれらの本を読んでいた。保育園の時には、字が書けるようになり話を書いていたそうです。小学校6年から中学生の頃は、今のライトノベルにあたるコバルト文庫で当時爆発的な人気があった新井素子さんの作品などの本を読んでいた。

将来作家になろうという夢があり、学生の中から作品を書いていましたが、新人賞など受賞できず就職しました。その後、結婚して時間ができて書いた「塩の街」で、「電撃ゲーム小説大賞」を受賞し、作家デビューをしました。

有川氏の夫が「図書館の自由に関する宣言」*を見て、有川氏にこの宣言を伝えたことが、「図書館戦争」を生むきっかけになり、その後、映画化されました。図書館戦争シリーズとして、「図書館革命」「図書館内乱」など6作あります。

有川氏は、作家デビューして3作続けて、自衛隊と未知の物体・生物との接触をテーマにした作品を発表しており、陸上自衛隊の「塩の街」、航空自衛隊の「空の中」、海上自衛隊・海上保安庁・機動隊の「海の底」の3作を合わせて自衛隊三部作と言われています。ほかにも「フリーター家を買う」「阪急電車」「三匹のおっさん」など、映画化されたりテレビドラマ化されたりした作品があります。

*日本図書館協会の宣言で、「図書館は資料収集の自由を有する。」など掲げています。

□ 図書館員のひみつの本棚 《 No.145 》

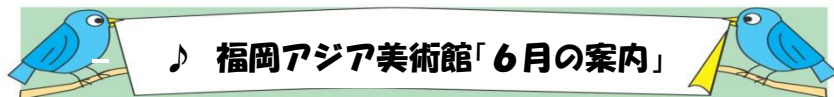
福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが、昨年度に引き続き毎月素敵な本を紹介して下さる楽しいコーナーです。

今回の本は、「パタポン」という子どもたちにぜひ読み聞かせたい詩集です。ぱたぼんというおまじないのような言葉は、「マリーちゃんとひつじ」(岩波の子どもの本)の絵本にでてくる羊の名前です。「パタポン①」の読者からは、年長の者が読んでも読み応えがあるという感想が多数寄せられているそうです。きっと、この詩を読み聞かせてもらった子どもたちは、自然界の不思議や美しさを満喫することと思います。

☆ 今月の本

『幼い子の詩集 パタポン ①②』

田中和男/編 童話屋 2002年 1350円



♪ 福岡アジア美術館「6月の案内」

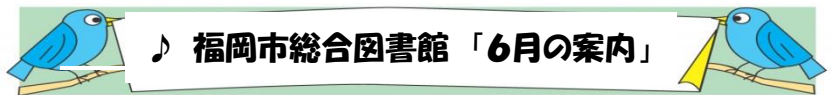


* アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

10日(日), 12日(火), 24日(日), 26日(火)

・時間: 11:30~12:00 13:00~13:30

・場所: 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)



♪ 福岡市総合図書館「6月の案内」



* 毎月のおはなし会

2日(土), 3日(日), 9日(土), 10日(日)

16日(土), 17日(日), 23日(土), 24日(日), 30日(土)

・時間 土曜日: 2日, 16日

14:30~14:45 赤ちゃん向けおはなし会

14:50~15:10 幼児向けおはなし会

9日, 23日

14:30~14:50 幼児向けおはなし会

14:55~15:10 つくってみよう やってみよう

30日

14:30~15:00 かがくをたのしもう おはなし会

日曜日: 14:30~ 幼児向けおはなし会

15:15~ 小学生向けおはなし会

・場所: 「こども図書館 おはなしの家」

☆ あとがき

中学校図書館教育研究会総会に参加させていただきました。総会の研修会では、図書館を活用した校内研修会のビデオを見ました。図書館を活用した授業をあまりされていない先生方にとっては、図書館を活用した授業のイメージが多少なりともできたのではないかと思います。グループに分かれての意見交換では、「図書の専門委員会で、POPコンクールをしている。」「給食時間、おすすめの本の一節を紹介している。」などの紹介があり、中学校も、読書の推進にがんばっていると感じました。8月に予定してある中学生図書委員交流会では、どんな取組みが聞けるか楽しみです。

発行：福岡市教育委員会 生涯学習課

電話：092-711-4655 FAX：092-733-5538

図書館員のひみつの本棚 第145回

今月は子どものための選詩集です。

『幼い子の詩集 パタポン ①②』

田中和男／編 童話屋 2002年 1350円

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 低学年☆☆☆ 中学年☆☆☆ 高学年☆☆ 中学生☆
高校☆ 一般☆

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

幼い子どもから大人まで楽しめる詩を収録した選詩集。まどみちお、谷川俊太郎、草野心平など日本の詩人だけでなく、『クマのプーさん』を書いたA.A.ミルンの他、ウォールター・デ・ラ・メア、ウィリアム・ブレイクなど海外の詩人の詩もたくさん紹介されています。

私のお気に入りにはA.A.ミルンの「ぼくだって」です。ぜひ子どもたちと声に出して読んでみてください。

<子どもに手渡す時のポイント>

この本は「幼い子の詩集」と銘打っていますが、一般的に言われるような“子ども向け”とは違います。編者も前書きに書いているように、幼い子どもたちの研ぎ澄まされた感性にも十分に訴えかける力を持った、すぐれた詩を集めた選詩集です。ぜひ、おはなし会で、ブックトークで、朝の読書の時間で、子どもたちに読んであげてください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

